

2019 年度の研究について

1. 研究主題

主題 「主体的 対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

副題 ～ カリキュラム マネジメントを通して ～
(2019 ～ 「読解力」の育成)

2. 研究仮説 (2018 年度)

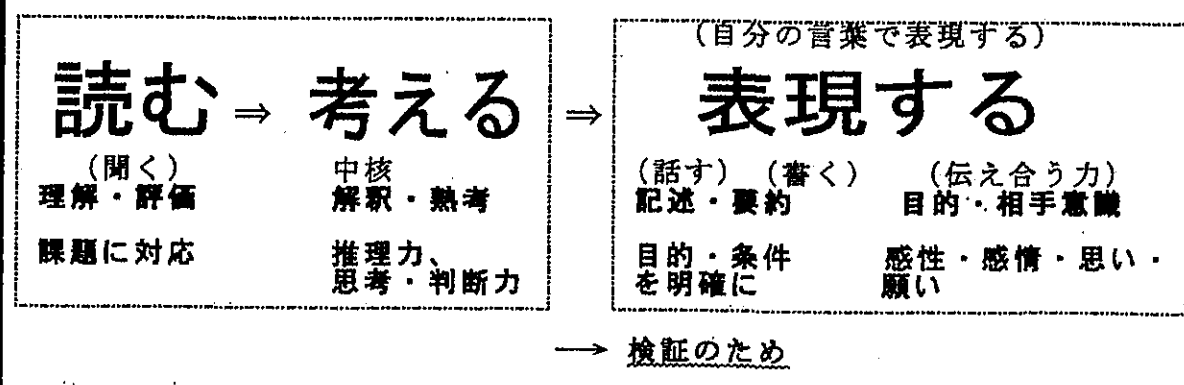
各教科の連携を図り、繰り返し指導した方がよい内容、学び直しをした方がよい内容を教科横断的に生徒へ指導することにより、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら「深い学び」へとつなげていくことができる。

(2019 年度) 生徒に身につけさせたい力: 読解力

授業の中で、資料を読み、考え、自分の意見を書き、相手の目的意識等を明確に位置づけた豊かな説明活動を取り入れた教科横断的な学習プロセスと、教育課程等から教科連携を図った取り組みを行うことにより、生徒の「読解力」を高めることができる。

【教科横断的な学習プロセス】

「読解力」を総合的に高めていく学習プロセス・・・



3. 本研究において目指す生徒像

- (1) ものごとをよく考えて判断し、自分の考えをしっかりと導いて表現することができる生徒
- (2) お互いに認め合いながら自主的に行動していくことのできる生徒
- (3) 目的や課題に対し見通しを立てて、確実に実践し、やり遂げる生徒

4. 研究内容

カリキュラム・マネジメントを通して、見通しを持って主体的かつ協働的に学ぶ姿勢を養う。また、各教科等の様々な角度・観点からの「見方・考え方」を働かせ、思考力や表現力を育成していく。

2019 年度は、「読む」→「考える」→「表現する」という一連の学習プロセスを教科横断的に実施して「読解力」の向上を図る。

- ① 国語科の学習を軸とした教科横断的な学習をするためのカリキュラムづくり
- ② 「深い学び」へと導くための教科横断的学習を通じた授業づくり

【具体的内容】

研究内容① 国語科の学習を軸とした教科横断的な学習をするためのカリキュラムづくり

- 国語科で学んだ「基準とする読解力育成のプロセス」を他教科でも活かせるようにする。また、国語科で学ぶコミュニケーション能力育成のための基本的なスキルについても、他教科で活かせるようにする。必要に応じて国語科から学習内容を報告してもらう。

(国語科でレポートの書き方を学習 → 理科の実験のまとめレポートに活かす。・・・など)

《基準とする読解のプロセス》…リーディングスキルテスト 読解のプロセス 11段階 1～4段階

1. 文節に正しく区切る。(例: 私は学校に行く。→ 私は/学校に/行く。)
2. 文の構造を正しく認識する。(例: 大きな黒い瞳の女の子 → 大きいのは「瞳」である)
3. 述語項構造や接続詞を正しく解析する。(「誰が」「何を」「どうした」のような構造を正しく認識する)
4. 照応関係を正しく認識する。(例: 私はハンカチを落とした。それを彼が拾った。
→ 「それ」は「ハンカチ」である。)

- 「読解力」の育成を柱に、各教科で主体的に学習を見通し、振り返る場面をどこに設定するか、学びの深まりを作り出すために、生徒が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるかなど、単元のカリキュラムをマネジメントする。また、単元ごとのゴールを決め、そこに到達するまでの「単元の指導計画」を作成する。

⇒ 年間指導計画を参考に簡単に作成する

※2018年度に行った教科横断的学習(単元の内容関連)、各教科必要に応じて行う。

2019年度年間指導計画には、位置づけしない。

2019年度の校内研究は「読解力の育成」に絞った教科横断的学習をする。

〈生徒につけさせたい力〉・・・「読解力」

教科書やテストでの問題文をきちんと理解できない生徒が多くいる。基礎的な読解力がない状態で授業やテストを受けても間違ったとらえ方をしてしまった、聞かれたことが分からず、何を答えればいいのか分からないという状態になってしまうだけである。「読む」→「考える」→「表現する」という一連の学習プロセスを教科横断的に実施して「読解力」の向上を図り、そこから「深い学び」につなげていきたい。

「単元の指導計画」をもとにした授業実践(指導と評価の一体化)
(PDCAサイクルの確立)

研究内容② 「深い学び」へと導くための教科横断的学習を通した授業づくり

「読解力」を総合的に高めていく学習プロセスと連動させる。

- ◇「汎用的な能力の育成」については、昨年度までやっていたことを再確認し、各授業、日常生活の中で意識していけるようにする。
- ◇「話し合い」「学び合い」「発表の仕方」においては、共通のルールを決め、どの授業でも、同じように進めていく。
- ◇「授業の流れ」は2018年度と同様に行うこととする。ただし、一単元の中で単元のまとめとして「表現活動」(書く、伝え合う・・・)を必ず入れる。



どの授業でも同じように進めていく(教科横断的学習)



総合的な学習の時間(例えば、各学年旅行的行事の発表会)で、教科の単元のまとめで行う「表現活動」ともあわせて、その成果を確認する。

(リーディングスキルテストを活用し「読む力」を測る)

5. 研究方法

(1) 国語科の学習を軸とした教科横断的な学習をするためのカリキュラムづくり

- ① 国語科で学んだ「基準とする読解力育成のプロセス」を他教科でも活かせるようにする。また国語科で学ぶコミュニケーション能力育成のための基本的なスキルについても、他教科で活かせるようにする。必要に応じて国語科から学習内容を報告してもらう。
- ② 年間指導計画を参考に、「読解力」の育成を柱に、各教科で主体的に学習を見通し、振り返る場面をどこに設定するか、学びの深まりを作り出すために、生徒が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるかなど、単元のカリキュラムをマネジメントする。また、単元ごとのゴールを決め、そこに到達するまでの「単元の指導計画」を作成する。

※「単元の指導計画」は、基本的には各教科で、単元ごとに作成するが、2019年度については、提出は一単元以上とする。提出の「単元の指導計画」以外は、メモ程度とし、授業改善に活かしていく。

(2) 「深い学び」へと導くための教科横断的学習を通した授業づくり

- ① 各教科での「読解力」のおさえを明確にする。(単元の指導計画の中に盛り込む)
- ② 各教科で教科書の読み取りに大切な箇所を印をつける。(マーカーで線を引く)
(「誰が」「何を」「どうした」の色分けしてマーカーで線を引く)
- ③ 「読む」→「考える」→「表現する」という一連の学習プロセスを教科横断的に実施して「読解力」の向上を図り、そこから「深い学び」につなげていく。
- ④③の学習プロセスの中に「汎用的な能力の育成」「話し合い」「学び合い」を盛り込み、「深い学び」につなげる

※ 各教科で授業計画・授業実践（可能であれば→授業交流） ※ 実践してみた成果・課題をレポートにて交流		
期 間	共通して取り組む課題	授業公開・交流
4月～6月	○各教科「読解力」の明確化	※「読解力の育成」をふまえた研究授業 (8月・12月実施)
冬休み	○「読解力」育成の学習プロセスを用いて教科横断的学習の授業実践。	※必要に応じて、授業交流
冬休み明け以降	○授業を行っての成果と課題の洗いだし。 ○単元の指導計画の検証・改善サイクルの実施	※各教科単元ごとに簡単な単元の指導計画を作成する。

(3) 「学びのユニバーサルデザイン」～ 講師を招いての学習会の実施

(4) 「話し合い」「学び合い」「発表の仕方」においては、各教科共通のルールを決める。

(5) 「授業の流れ」については2018年度と同様に行うこととする。ただし、一単元の中で単元のまとめとして「表現活動」(書く、伝え合う・・・)を必ず入れる。

(6) 《汎用的な能力》

特別活動及び総合学習における研究は、学校行事やキャリア教育、学級活動と関連させながら進める。共通するところでは、体育祭や三稜祭などに向けた取り組みにおいて、1学年では「校外学習」、2学年では「宿泊学習」「職場体験」、3学年では「修学旅行」「上級学校訪問」などにおいて、ねらいや目的を十分理解させ見通しを持って活動にあたることを意識させる。その活動の中で「話し合い」を積極的に取り入れていく。また、事後学習のまとめとして報告会や発表会を行う機会を持つ。その際、可能であれば保護者や地域の方にも公開する形とする。発表の内容や形態等については、学年で計画して行うものとする。

(7) 研究を意識して取り組んだ授業の授業展開や生徒の反応、成果、課題等について実践を記録化していく。(実践記録簿の作成)→各自メモ程度

(8) 研究の成果レポートを通して交流する。(1月)

6. 検証方法

- (1) 授業公開・交流及び事後研究協議
 - (2) 学校評価（研究課題・内容に関わる事柄を評価項目に入れてもらい、分析）
 - (3) 〈リーディングスキルテストを活用し、「読む力」を測る。〉
 - (4) hyper-QU（よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート）の活用
- ※年2回（6月上旬、11月上旬）の実施による変容の把握、より良い人間関係の構築や学級経営への活用

第1回校内研修

1. 2019年度の研究について（『三稜の教育』教務研究p30～34）

主題	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり
副題	～カリキュラム・マネジメントを通して～ （「読解力」の育成）

◇2019年度に行うこと

- ① 各教科での「読解力」のおさえを明確にする。【4月3日～5月7日】
※5月10日の職員会議で提示
- ② 各教科で教科書の読み取りで大切な箇所に印をつける（マーカーで線を引く）
（「誰が」「何を」「どうした」の部分の色分けしてマーカーで線を引く）
- ③ 各教科で「読む」「聞く」→「考える」→「表現する」という一連の学習プロセスを教科横断的に実施する。「読解力の向上」⇒「深い学び」

文章を読んだり、聞いたりしたものを、自分の言葉で話して、あるいは書いて他の人に伝えることができる。

- ④ 各教科、年間指導計画を参考にして「読解力」の育成を柱に、単元の指導計画を作成する。一単元の中で、必ず「表現活動」（書く、伝え合う…）を入れる。
- ⑤ 「汎用的な能力」の育成についても、授業の始めに必ず身につけさせたい力を伝え、授業の終わりに評価する。
- ⑥ 「授業の流れ」については、2018年度と同様に行う。

《授業の流れ》

1. 課題提示（教科の課題／汎用的な能力で身につけさせたい力）
2. 課題解決に向けての手順、方法
3. 自力解決（課題解決）
4. 交流（学び合い）
5. 振り返り（一単元の中で必ず表現活動を入れる）
6. 評価（教科の課題について／汎用的な能力で身につけさせたい力について）
- く 7. 定着…学んだことを定着させるための課題等

※国語科で学んだ「基準とする読解力育成プロセス」を他教科でも活かせるようにする。
また、国語科で学ぶコミュニケーション能力育成のための基本的なスキルについても他教科で活かせるようにする。必要に応じて国語科から内容を報告してもらう。

（国語科でレポートの書き方を学習 → 理科の実験のまとめレポートに活かす。・・・など）

《基準とする読解のプロセス》… リーディングスキルテスト 読解のプロセス11段階1～4段階

1. 文節に正しく区切る。 （例：私は学校へ行く。→ 私は／学校に／行く。）
2. 文の構造を正しく認識する。 （例：大きな黒い瞳の女の子→ 大きいのは「瞳」である）
3. 述語項構造や接続詞を正しく解析する。（「誰が」「何を」「どうした」のような構造を正しく認識する）
4. 照応関係を正しく認識する。 （例：私はハンカチを落とした。それを私が拾った。
→ 「それ」は「ハンカチ」である。）

2. 「話し合い」「学び合い」「発表の仕方」共通のルール

《 進め方 》

- 1 グループを作る。(人数4～6人 机を向かい合わせにする)
- 2 司会者、記録者を決める。(ローテーション順番に回す)
- 3 司会者が班員に意見を聞く。記録者が一人ひとり意見をメモする。
- 4 他の人の意見を聞いて、どのように考えたか(意見の変化／質問)確認する
- 5 司会者が班で出た意見を全体に発表する。

《 発表の仕方 》

- 1 聞いている人の顔を見て、聞いている人に聞こえるように発表する。
- 2 どのような意見でも、自分の言葉で発表する。
- 3 自分の考えを発表するときは、必ず根拠(そう思った理由)を示す。
- 4 他の人の意見に対して自分の意見を発表するときは、自分の立場をはっきりさせる。(賛成、反対、付け足し、違う意見など)

《 発表の聞き方 》

- 1 発表している人の顔を見て聞く。
- 2 自分の意見と比べながら聞く。(ポイント、自分の意見との違いをメモする)
- 3 他の人の意見をもとに、自分の考えを見直す。考えが変わったりした部分は、理由をあげて書いておく。

3. 公開授業(指導主事訪問)授業者について

◇ 第1回指導主事訪問 8月23日(金) 授業者

◇ 第2回指導主事訪問 12月20日(金) 授業者

学校全体で取り組むコミュニケーション能力の育成

■すべての教育活動において、適宜適切に指導して、習慣化を図りたい。

コミュニケーション能力	実践方法等
■分けて聞く ■聞いて話す ■聞いて反応する ■聞いて質問する	□話し手は、「何項目話したか」「何について話したか」を把握しながら聞く能力を育成する。 □話し手の話を理解して、自分の意見、さらに根拠をもって話す能力を育成する。 □「Aさんは、～と言いました。私は、『同じです』or『違います』。なぜなら～だからです」 □会話や話し合い等において、「傾いて聞く」、「話しのポイントを繰り返す」など、聞きながら反応することを習慣付ける。 □疑問はもとより、確認など、質問することを習慣付ける。 ・「つまり、例えるなら、〇〇のようなものでしょうか？」 ・「ということは、××ということですか？」 ・「私の言葉でいうと、△△というものですね」等
■分けて話す	□話す際、「ナンバーリング」「ラベリング」して分けて話す能力を育成する。
◆メモする ◆短文で書く ◆漢字を使う	◇メモすることを習慣づける。 ◇主語・述語が明確で、文がねじれないで書く力を育成する。 ◆既習の漢字を日常も使用するよう指導する。
★評価的に読む	☆提案文書など、自分の意見と比べながら読む、時には、批判的に読むなどの能力を育成する。 ・「自分の意見と同じか、違うか」、「おかしい所はないか」と考えながら読む。

※当たり前のことですが、意識して指導することによって、より習慣化するようにしたいです。

学年 科単元の指導計画

1. 単元名 _____

2. 単元で育成する読解力

--

3. 単元の目標

--

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

5. 指導と評価の計画（全 時間）

時間	○ねらい ・ 学習活動	単元の評価規準	評価方法
1			
2			
3			
4			

時間	○ねらい・学習活動	単元の評価規準	評価方法
5			
6			
7			
8			
9			
10			

【表現活動の内容】

【パフォーマンステストの内容】

3学年 英語科 単元の指導計画

1. 単元名 Lesson 5 Athletes and Languages

2. 単元で育成する読解力

- 文法構造（関係代名詞）を正しく理解し、それを用いたオリジナルの文を作ることができる。
- 相手の話の内容を理解し、それらに対して自分の意見を述べることができる。

3. 単元の目標

- 外国の方に対して、世界で活躍する日本人について、発表することができる。
- 人やものについての情報を聞いて、その内容について理解することができる。

4. 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1 言語活動に積極的に参加しようとしている。 2 ALT と積極的にかかわろうとしている。 ア	・人やものについて詳しい情報を加えて説明することができる。 イ	・人やものについての資料を読んだり、説明を聞いたりして、その内容を理解することができる。 ウ	・世界貢献する人物について理解することができる。 ・接触節や関係代名詞の形、意味、用法を正しく理解することができる。 エ

5. 指導と評価の計画（全10時間）

時間	○ねらい ・学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	パフォーマンステスト予告。 (Part 1) who (主格)の用法を理解することができる。	アー 1 イ エ	Activity (小テスト)
2	Part 1 の本文の内容を理解することができる。	ウ	True or False Question & Answer
3	(Part 2) which, that (主格)の用法を理解することができる。	アー 1 イ エ	Activity (小テスト)
4	Part 2 の本文の内容を理解することができる。 ・パフォーマンステストに向けて 1 (5 分間ミーティングタイム)	ウ アー 1	True or False Question & Answer

時間	○ねらい ・ 学習活動	単元の評価規準	評価方法
5	(Part 3) which, that (目的格)の用法を理解することができる。 ・ パフォーマンステストに向けて 2 (5 分間ミーティングタイム)	ア－1 イ エ	Activity (小テスト)
6	Part 3 の本文の内容を理解することができる。 ・ パフォーマンステストに向けて 3 (5 分間ミーティングタイム)	ウ ア－1	True or False Question & Answer
7	(Part 4) that (最上級や allなどを伴うもの)の用法を理解することができる。 ・ パフォーマンステストに向けて 4 (5 分間ミーティングタイム)	ア－1 イ エ	Activity (小テスト)
8	Part 4 の本文の内容を理解することができる。 ・ パフォーマンステストに向けて 5 (5 分間ミーティングタイム)	ウ ア－1	True or False Question & Answer
9	パフォーマンステストの準備、練習。	ア－1 イ エ	観察
10	パフォーマンステストの実施 with ALT	ア－1 ア－2 エ	発表

【表現活動の内容】

- ・ 世界で活躍する日本人についてのクイズを、関係代名詞を使った文を用いて作成し、それを ALT に出題する。
- ・ クイズを出題するときに、英語でヒントを出したり、ALT の質問に答えるなどのやりとりをする。

【パフォーマンステストの内容】

- ・ 4 人グループで実施 ・ 世界で活躍する日本人を ALT に Quiz 形式で出題
- ・ 発表は ①出身地 ②職業 ③活躍している国 ④活躍内容 → must + α option
※ 人物名は言わない

【評価】 1. アイコンタクト 2. Volume 3. 発音 4. 内容

2019年度 校内研修「各教科の読解力のおさえ」

教科	担当者	読解力のおさえ
国語		○相手や場に応じて話す、話し合う、また、話し手の意図を考えながら聞くことができる。 ○論理の展開や構成を工夫しながら、わかりやすく書くことで自分の考えを深めることができる。 ○様々な種類の文章を読んで構成や展開、表現の仕方などを捉え、自分の考えを広げることができる。 ○言葉の特徴やきまりについて理解し、語彙を豊かにしながら、社会生活の中で適切に使うことができる。
国語		○相手や場に応じて話す、話し合う、また、話し手の意図を考えながら聞くことができる。 ○論理の展開や構成を工夫しながら、わかりやすく書くことで自分の考えを深めることができる。 ○様々な種類の文章を読んで構成や展開、表現の仕方などを捉え、自分の考えを広げることができる。 ○言葉の特徴やきまりについて理解し、語彙を豊かにしながら、社会生活の中で適切に使うことができる。
数学		○数式、図、表、グラフなどを読み取り、正しく必要な情報を取り出すことができる。 ○問題文から何を求めたいのかを、読み取ることができる。
数学		○数式、図、表、グラフなどを読み取り、正しく必要な情報を取り出すことができる。 ○問題文から何を求めたいのかを、読み取ることができる。
数学		○文章や数、式、図、表、グラフなどから正しく必要な情報を取り出すことができる。 ○取り出した情報から筋道立てた解答を導き出すことができる。 ○解答に至るまでの考え方を文章や式、図などで論理的に表現することができる。 ○自分の感じたことや考えたことを他者に分かりやすく表現することができる。
社会		○テキストを理解しながら読む力を高めることができる。 ○テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めることができる。 ○様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりすることができる。
社会		○事実を相手に伝達したり、相手と共有したりするために、文書（資料）を初見で読み、正確に理解できる能力。
理科		○図やグラフなどの結果から自分の考えを表現することができる。
理科		○実験データを視覚化し、文章で説明することができる。 ○自然現象を、実生活での事柄を使って説明できる。
英語		○テキストの内容を理解し、それらを利用し、相手に自分の意見等を述べるすることができる。 ○相手の話の内容を理解し、それらに対して自分の意見を述べるすることができる。 ○文法構造を正しく理解し、それを用いたオリジナルの文を作ることができる。
英語		○テキストの内容を理解し、それらを利用し、相手に自分の意見等を述べることができる。 ○相手の話の内容を理解し、それらに対して自分の意見を述べることができる。 ○文法構造を正しく理解し、それを用いたオリジナルの文を作ることができる。
音楽		○楽譜から様々な情報を読み取り、表現を工夫することができる。 ○音楽の良さを音楽的な言語を用いて紹介することができる。
美術		○デッサンやクロッキーにおいて、対象を深く観察、処理し、紙面に写し取る作業（情報の入出力）を行うことができる。 ○説明を見たり、聞いたりするだけでなく、手本を見ることで技術の読み取りを行い、自分の制作につなげることができる。
保健体育		○図解体育、保健の教科書の基本用語、技の方法、練習やゲーム、発表会、教え合いの中で説明、発表、表現したりすることができる。
保健体育		○競技や既習事項について保健体育の専門用語を用いて説明、発表することができる。
技術		○情報の中から必要なものを選び、自分の考えと目的に合わせて制作することができる。
技術 (1, 2年生)		○教科書に書かれていることの理解だけでなく、材料や工具の感触など実際に手に取ることによって得られる情報を読み取り、自分の中で整理し活かすことができる。
家庭		○テキストの内容を理解し、必要に応じて発表することができる。 ○調理実習や作品制作において、説明を理解しながら実習を行うことができる。
家庭		○必要な情報を収集・整理し、自分の考えをまとめて発表することができる。 ○調理実習や作品制作において、説明を理解しながら実習を行うことができる。